チーム大川で魅せる〝木工の街・大川〟

大川商工会議所青年部　平成30年度 会長
株式会社 トーシン
代表取締役社長　田中 雅博 さん

初出場を果たした平成 24 年

毎年7月下旬に開催されている『鳥人間コンテスト』。今年、大川商工会議所青年部の再挑戦が決定しました。今回の夢追い人は今年度青年部会長の田中雅博さんに大会に対する意気込みなどをお伺いしました。

大川の技術で空へ

「5年前の初出場ではTV放映で木工の街・大川をPRする事ができ大成功でした。勢いをつけ2年連続で出場した4年前は、TV放映も飛距離も芳しくない結果となり、どちらかというと失敗だったと言われています」

では、今回また挑戦するに至った要因にはなにがあったのでしょうか。

「昨年、津村会頭から当時青年部会長だった今村さんへそろそろ飛ばないのかという打診があったことも要因のひとつですね。その際、津村会頭だけでなく様々な方が期待しているという話もお聞きしました。正式に私が30年度の会長という話を頂く前ではありましたが、鳥人間コンテストに応募するということを聞かされた時は、もちろんやりましょう！という気持ちでした」

前回までと今回で、挑戦するにあたっての意気込みの違いなどはあるのでしょうか。

「過去2度出場した時と同じように、目的はまず木工の街・大川のPRです。木工の街で、木製の飛行機を作るのは変わらずにやっていきます。飛距離を伸ばすわけでも、斬新なデザインをするわけでもない。我々青年部メンバーや大川の各青年部団体が大川の街を盛り上げていこう！という色を出して飛びたいですね。それで結果的にTV放映されたり、飛距離が伸びれば大成功。TV放映されなくても、実際に鳥人間コンテストで飛ばした機体を展示していくことも考えています。本放映だけでなく他のメディアを通じて、こういったことにチャレンジしているというアピールもしたいですね。また、私は青年部という名前をあまり前面に出さなくても良いと考えてい

ます。まずは大川の名前を出して、大川をPRしていきたい。そしてこういった挑戦を大川の皆さんに応援してもらえるのが理想の形ですね」

取材をさせて頂いた5月初旬には、すでに機体の製作に取り掛かられているとのこと。

「今は各パーツをそれぞれの事業所で作っているところです。青年部メンバーやOBの先輩方だけでなく、フィユースや木建会※といった木工業を生業とされる青年部団体にも製作の協力をして頂きます」

今回参加される機体も木工まつりで展示されるのでしょうか。

「是非展示させて頂きたいですね。製作の過程などは写真と映像の両方で記録していきますので、前回、前々回も合わせて、チャレンジのあゆみも含めて木工まつりで展示し、見ていただけたら嬉しいですね」

木製の機体ということですが、パーツは全て木でできているのでしょうか。

「全部というわけではないです。なんでも重たい木で作ってしまうと、重すぎて飛ばなくなってしまいます。重い木材だけでは難しいパーツなどは、ツキ板加工など大川の木工技術を駆使して仕上げています。また前回も尾翼に組子などを取り入れましたが、今回も大川のPRに繋がる要素をデザインに取り入れたいですね」

"人"と繋がる

青年部では他にどのような取り組みをされているのでしょうか。

「7月末までは鳥人間コンテストに向かって一丸となり頑張っていくことになると思います。10月の木工まつりでも大きなイベントを青年部として任されていることもあるので、そちらも地域のために頑張らないとですね。でもイベントなど盛り上がることばかりでなく、経営者としてしっかり勉強して、自社に持ち帰って活かしてもらうというのも青年部の大きな目的のひとつだと考えています。得手不得手はあるかもしれませんが、色々なことに参加して、関わって、勉強していく。これは自分のため、会社のため、そして地域のために繋がることだと思います」

また月に一度は例会として勉強会などを開催されているとのこと。

「毎月の例会は様々な内容で行っています。あまり偏ったものにならず、メリハリを付けるよう心がけています」

また現在の青年部の状況も教えて頂きました。

「メンバーは現在59名です。私が入った当初は80～90名だったので、60名前後になってちょっと寂しくなりましたね。今年度の私の活動指針の中に、会員を増やそうというものがあります。これからの青年部の未来のためにも、会員拡大はメンバー全員で意識を高めて取り組んでいかなくてはならないと思います。鳥人間コンテストや勉強会、イベントなどの活動で大川をPRしていくことは、ひいては自分たちのPRだとも思っています。地域のために、自分たちのために、自社企業のために頑張っている。そういう団体なら入りたいなという方が増えたらいいですね」

では青年部に加入して良かった点はなんでしょうか。

「なによりたくさんの人との繋がりを作れるという点が良かったですね。同じ業界内では経営に関わる方と顔見知りになれましたが、大川でと考えると同級生程度の繋がりでしか知り合いはいませんでした。青年部に入ることによって年齢・業種に関係なく、大川での繋がりがたくさん増えました。それから役職を担うことによって、他団体のメンバーとも顔見知りになれました。これによって経営に関する悩みを相談する相手も格段に増えましたね。

それから経営に関する勉強をできるところですね。経営について学ぶ機会はあまりないのですが、青年部はその機会を作るところです。他団体が開催しているセミナーに関しても、メンバーで参加しようという話もできます。またそういったセミナーや青年部活動に参加するための上手い時間の使い方も学べることがよかった点かなと思います。やはり大川商工会議所青年部に入らないよりも入ってよかったと思うことばかりですね」

より良い方向へ

今年1月から㈱トーシンの社長になられた田中さん。会社に対する思いもお話して頂きました。

「社長になったといっても、日々の業務内容は今までと大きく変わりませんが、これから社長業を勉強して強い会社にしなければならないと考えています。まだまだい草業界も地域の景気もそれほど良くなってはいませんから。

い草商品は空調設備の充実などで需要が落ちています。また農作物でもあるので、年々作り手が少なくなっているのが現状です。この地域は昔からい草の産業があり、先代がトーシンという会社を起こし、い草の製造メーカーということで大川の地で事業を続けてきました。会社を引き継いでからも、基本であるい草の製造メーカーというのをおさえながら、い草以外の商品の取扱にも着手し、会社を継続発展していかなければと考えています」

では田中さんの夢はなんでしょうか？

「この厳しい中でもい草産業の伝統を守っていかなければならないと思っています。業界全体で手を取り合って、い草業界のために邁進しなければならない時です。私は以前のように、天然素材としてい草が再注目されてくるだろうと思っています。そういう流れが戻ってきた時に競争ではなく、業界として力を入れてPRして、業界全体が盛り上がるようにしていきたいですね。現在の大川の家具業界で、各会社の名前が出るのではなく『大川家具』というブランド名が前に出ていくのはすごく羨ましいです。他業界のいいところは見習って、い草業界に新しい風を吹き込むことは、業界の若者、会社の社長として近い将来実現しなくては行けない目標だと思っています。

また青年部会長としては、今年一年、色々なところに代表として出向くことになります。大川商工会議所青年部の魅力を発信していきますので、よろしくお願いします！」

※ … 大川建具協同組合青年部、大川家具工業会青年部